

「第10回 放射線計測専門家会合」を開催

(公財) 放射線計測協会 事業推進部 研修・普及グループ

このたび、令和6年2月9日（金）に東京都新橋の航空会館において、第10回放射線計測専門家会合（以下「専門家会合」という）を開催致しました。前回の第9回の専門家会合は雪の中での開催となりましたが、今回は天気にも恵まれて無事終了することができたことに安堵しております。

放射線計測協会は、放射線計測に係る知識普及の一環として、コロナ禍での中止を除き、平成21年から毎年、専門家会合を開催しております。専門家会合は、放射線防護関連の専門家や研究者が集まり、最新の放射線計測技術やその研究成果、放射線被ばく管理技術や防護に用いる線量などに関する情報共有と議論を行う場として今回で10回目の開催となりました。その年毎に知識の向上に役立つテーマを取り上げて、その中で放射線計測に関する最新のトピックスや課題について、様々な専門家や機関からの視点で情報交換を行っています。

今回の専門家会合では、東京電力ホールディングス福島第一原子力発電所（1F）事故後の放射線計測技術の開発をテーマとした二つの講演とそれに関する意見交換を行いました。

講演の一つ目は1Fの廃炉に向けた計測関連技術の開発に関する内容です。廃炉の作業環境は非常に複雑で高線量であるため、これまでと異なる様々な新しい計測技術が開発されています。タイトルは、「福島第一原子力発電所廃炉等に向けた放射線計測・デジタル関連技術の開発」で、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構福島研究開発部門の高崎 浩司様にご講演頂きました。内容につきましては、当放計協ニュースの技術記事として、P2～P5に掲載させていただきますので、そちらをご覧ください。



講演者 高崎 浩司様

講演の二つ目は、1F事故後の除染作業における

作業管理の改善のため開発されている、新しい個人モニタリングの開発についてで、大成建設株式会社の時吉 正則様に講演いただきました。タイトルは、「新しい遠隔被ばく線量管理技術」です。

講演では、電子式個人線量計にGPS及び通信機器を組み込んだ個人モニタリング機器の開発と性能試験、また、これを用いて作業者の位置・動線と線量率を視覚的に表示できるようにしたシステムの開発やそのトレンドデータの活用等について紹介されました。



講演者 時吉 正則様

各講演資料は、当協会のホームページ（<https://www.irm.or.jp/>）よりご覧頂けます。

講演後の質疑では、廃炉に向けた新しい計測技術の高線量率対応状況や、遠隔被ばく管理技術の原子力施設内作業への適用の可能性や課題などについて、活発な議論が行われました。また、総合討論では、放射線計測を、これまでとは異なる分野の技術を取り込んだ複合技術とすること、若手に興味をもってもらふことの重要性等について意見交換が行われ、大変有意義な会合となりました。

改めまして、本会合の成功にご尽力頂いた皆様に、心より感謝と敬意を表し、お礼の言葉を申し上げます。今後も新しい放射線計測関連技術に関する情報交換と技術交流を深めるために、本専門家会合を継続したいと考えております。

